

株式会社 日本ベル投資研究所 (ベルトーケン)

2016年7月5日

代表取締役 鈴木行生

第6期 事業報告書

1. 決算期 2016年6月期 (2015年7月～2016年6月)

2. 決算内容

- ・リスクをマネージできる投資家と企業家の創発を軸に、アナリストの活動領域において、そのクオリティを上げることに重心を置いた。
- ・業績は前期を下回ったものの、一定の安定した収入と利益を上げることができた。
- ・社会貢献活動を主軸にしているため、取締役報酬は取らない方針である。よって、取締役報酬および配当は無い。
- ・納税、寄付のほかは内部留保し、今後の活動資金として活用する。
- ・純資産を活用して、企業価値創造に資する株式投資を開始して2年目であるが、その評価益は今期も期間利益に貢献した。

3. 事業内容

- ・IR(インディペンデントリサーチ)アナリストレポートを、四半期ごとに19社について発行してきたが、期中に14社に変更した。5社のカバレッジ中止は、1) 会社が十分大きくなり、機関投資家の認知が高まったこと、2) 社長が交代して新しい体制になったこと、2) 当方の仕事のバランスでカバレッジを減らす必要性が高まったことによる。
- ・投資環境レポートを四半期ごとに発行し、企業の経営環境、経営行動、株式市場に関わる変化など、企業を見る目をいかに養うかについて具体的に検討した。また、米国の現地調査は今年度も実施した。
- ・英語での要請に答えて、企業レポートの英文化を一部継続的に実施した。
- ・事業会社の企業経営、IR活動についてアドバイスした。
- ・事業会社の要請により、投資家の視点から知りたい項目について質問し、理解を深めるようした。
- ・投資情報ポータルサイトに投資家の啓蒙に向けたコラムを継続的に執筆した。
- ・外部依頼の個人投資家向け講演会で適宜講演した。
- ・事業会社、監査法人などの依頼により、社外セミナーや社内研修の講師を担当した。

## 4. 対外活動

- ・ 東証1部上場2社の独立社外取締役として、事業会社の経営発展に貢献すべく活動した。今後とも力を入れていく。
- ・ 経済産業省「経営者・投資家フォーラム」のメンバーとして、議論に参画した。
- ・ 経産省、東証主催の「攻めのIT経営銘柄」の審査委員を務めた。
- ・ 「統合レポート」に関するWICI表彰に当たって、審査委員長を務めた。
- ・ 東日本大震災の復興支援として、「東日本大震災こども未来基金」支援義援金セミナー「未来を創る子供たちに今出来ることを」に参画した。
- ・ 一橋大学CFO教育研究センターのワークショップで、コーディネーターを務めた。
- ・ 大学のビジネススクールで、ゲスト講師を務めた。

## 5. 事業成果

- ・ 当社のパートナー鈴木淳美常務執行役員との連携により、アナリストレポートを継続的に発行し、当社ブランドを高めることができた。
- ・ レポートの配信については、ブルームバーグ、アイフィス、みんかぶなどの有力サイトへ継続している。
- ・ 英文レポートを継続的に発行する体制を整えている。

## 6. 次期の課題と対応

- ・ 引き続きアナリストレポートの発行と配信に力を入れるが、社数については15社程度を目途とする。
- ・ レポートの内容については、当該企業のビジネスモデルの解明に力を入れ、企業価値の将来予測と品質の向上に一層努める。
- ・ 企業の統合報告がより充実する視点で、投資に役立つアナリストレポートを書いていく。
- ・ 日本における個人投資家層の大幅な拡大に向けて、外部の組織と連携して、アナリストレポートの発行と啓蒙的な活動に一段と力を入れる。
- ・ 外部機関と連携して、事業会社と投資家の対話を促進するように啓蒙教育活動をサポートする。
- ・ 内部資金を活用した有価証券投資をスタートさせたが、長期投資の視点で価値創造企業へ引き続き投資していく。なお、当社が発行する企業レポートの企業に投資することは行わない。